

# 【国語科・小6・「日本文化を発信しよう」】①

## 育成を目指す資質・能力

(知識及び技能) 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。(3)才  
(思、判、表等) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。BI  
(学びに向かう力等) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

## ICT活用のポイント

・既習事項の確認及び活用    ・資料(画像)の編集による思考力の深まり    ・意見の共有による表現力の深まり

### 【つかむ】

- ・前時までの学習を振り返り、見直しをもつ。

### 【追究する】

- ・『鳥獣戯画』の画像を選び、紹介文を書く。
- ・紹介文を共有し、コメントを送り合う。
- ・自分の紹介文を推敲する。

### 【まとめる】

- まとめと振り返りを行う。

## 事例の概要

### 【事例におけるICT活用の場面①】

- 前時までにまとめた教科書の文章に見られる「評価の言葉」や「表現の工夫」について電子黒板で確認し、学習の見直しをもつ。

### 【事例におけるICT活用の場面②】

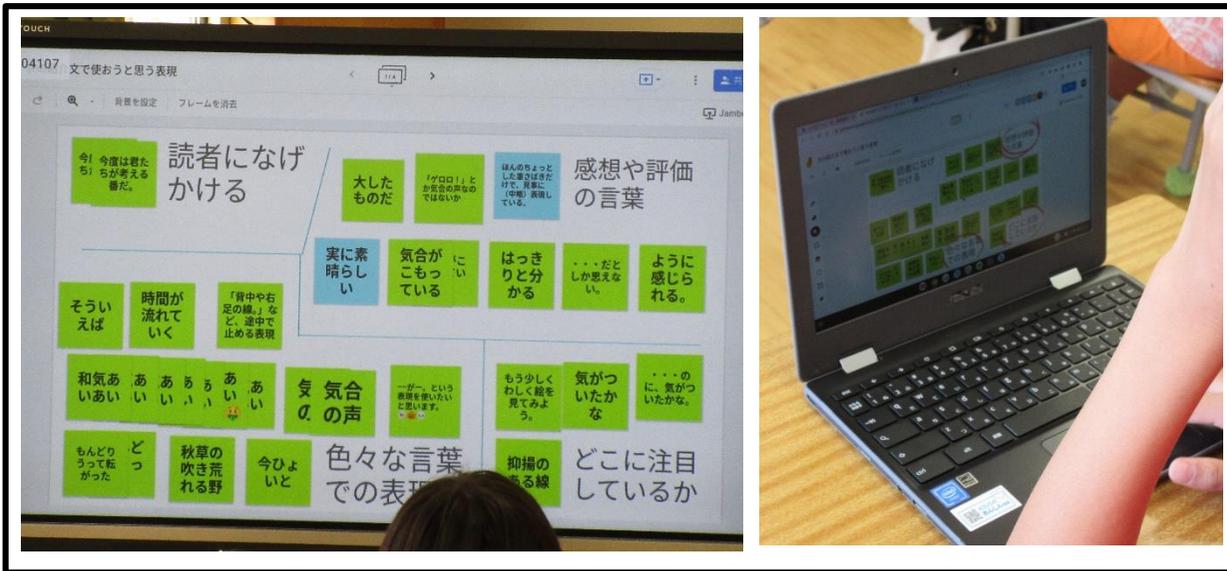
- 選択した画像について、自分が注目した部分をトリミングしたり、拡大したりして、紹介文を書く。
- 紹介文を提出し全体で共有する。他の児童の紹介文について、よいところや改善点をコメント機能を使って伝える。
- 自分に届いたコメントや、他の児童の紹介文を参考にして、自分の紹介文を推敲する。

### 【事例におけるICT活用の場面③】

- 自己評価カードを提出し、共有する。

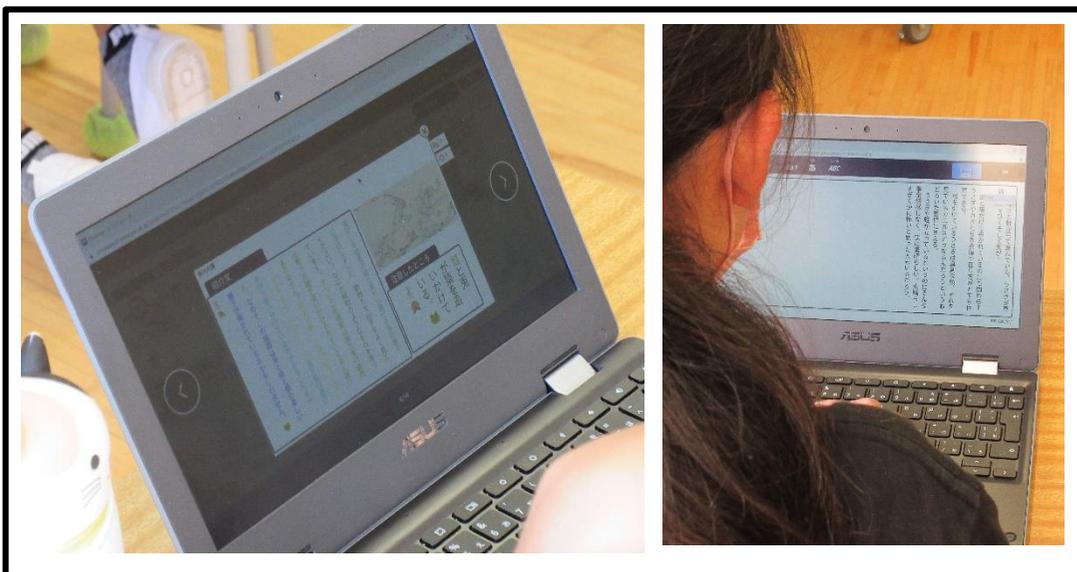
# 【国語科・小6・「日本文化を発信しよう」】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



前時までの学習を振り返り、見通しをもつ場面では、これまでにまとめた教科書の文章に見られる「評価の言葉」や「表現の工夫」について、電子黒板で確認をした。これは、学習支援ソフトの付箋に書いたものを内容ごとにまとめて、文章上の特徴や留意点を整理して示していた。この画面は児童のICT端末において共有されており、常に確認することができた。情報に瞬時にアクセスできることは、ICT活用のメリットであり、紹介文を書く場面において、この画面を確認している児童もいた。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



紹介文を書く活動では、学習支援ソフトのカード機能を活用した。貼付する画像を選び、トリミングするなど、児童一人一人が選択・決定し、自分なりの表現ができた。作業時間も従来より短縮され、書く活動に充てることができた。次に、紹介文を共有し、コメントを送り合った。ここで、児童同士で観点を共有したり、自分以外の考えに触れたりすることができ、さらに自分の中で対話的に練り上げることで、推敲に生かすことができた。児童のタイピングもかなり身に付いているため、文章作成や推敲も容易となり、児童の書くことへの意欲が増すことが期待される。

【活用したソフトや機能】 ・学習支援ソフト（画面共有、画像編集、文書作成、コメント）